

街中の「映像展」に多くの人が訪れました

郊外にある資料館へなかなか足を運べない方にも、イタイイタイ病の恐ろしさや克服の歴史を広く伝えようと、2月13日と14日の2日間、富山市民プラザ（2階アトリウム）において、「イタイイタイ病映像展」を開催しました。

映像展では、イタイイタイ病の患者家族や多くの問題解決に尽力された関係者、総勢21名の証言映像を大型スクリーンで紹介しました。これらの映像は、県が平成21～22年度に撮影したもので、まとめて上映するのは今回が初めてとなりました。

また期間中、普段見ることのできない裁判中の貴重な写真なども展示しましたが、実際にそこに写っているご本人やご家族がお見えになり、当時の様子などをお話しておられました。

今回、富山市中心部での用事の合間に見学される方も多く、2日間で160名を超える人々に訪れていただきました。今後も館外活動の一環として、工夫しながら開催していきたいと思えます。



120名が「公害病」について考えました

2月16日、資料館で「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催したところ、県内外から約120名もの参加者が集まりました。当日は、石井知事の挨拶に続き、鏡森館長が、昨年4月の開館以来の入館状況や実施事業を報告。その後、資料館での見学を機に、熱心に学習された小中学校と大学の学生たちから、その成果を発表していただきました。

午後からは、テレビでおなじみの明治大学理工学部の北野大教授による講演会を開催。「地球環境を救う新しいライフスタイルへ」をテーマに、環境問題についてわかりやすく解説していただきました。

フォーラムの結びは、四大公害病の資料館長等が一堂に会する全国初のシンポジウムを開催。資料館同士の連携策や語り部の高齢化という共通課題について活発な議論が行われ、最後に鏡森館長が、「お互い知恵を出し合い、まずは、語り部育成などに共同で取り組みたい」と締めくくりました。

会場も含めて熱い議論が繰り広げられ、イタイイタイ病だけでなく「公害病」について、みんなで考えることができた1日となりました。

